知事との県民対話集会（木祖村）概要

・開催日時　　令和５年２月８日（水）　午後２時から午後３時30分まで
・会　　場　　木祖村民センター　１階ホール
・参 加 者　　県民35名、奥原木祖村長、阿部知事、神事木曽地域振興局長
・テ ー マ　　人口減少に伴う空き家の利活用

・主な発言（要旨）

【参加者】
・空き家について、住居として使うだけでなく、村民が楽しめるような活用をしたい。シェアキッチンなど交流の場などでも借りられるようにし、そこへの補助金があればよいと思う。
・借り手と貸し手の間にトラブルなくできるマッチングシステムができればよいと思う。

【知事】
・空き家を借りること自体のハードルがあると思うし、改修費用もかかる。また、脱炭素を進めるときに空き家は断熱性能が低いのでそのままでいいのかと気になるところもある。行政として本当に関わらなくてはならないところは重点的にやらないといけないが、その他のところまでやろうとするのは厳しいと思う。
・空き家の貸し借りや売買を制度的にしっかりしないと、貸す方も借りる方もやりづらいと思う。流通の仕組みをつくるのは行政が考えなければならない。
・皆さんの活動を県が応援するとしたら、特別な地域であるとか、長野県で売りになるとかということであればできるが、どこにでもあることだと支援しにくい。元気づくり支援金は地域振興局で持っているので、活用してもらえればと思う。

【参加者】
・2017年から年に一度芸術祭を開催している。木曽地域に美術館、アートに関する施設がないので空き家をアートに活用しようと思っていた。
・これまで４人のアーティストが木祖村に移住したが、マイナスの部分もあり、無料で借りる約束だったのに終わった後に高額な請求をされたりするなど、毎回トラブルはある。
・信州に移住してきたアーティストから、移住はしたが地域コミュニティに入れず結局週末だけ来るようになったなどの相談を受ける。
・都市には製作場所に困っているアーティストがいるので、生活するには難しく、空き家バンクに登録することをあきらめている家でも、アーティストから見れば魅力的に映る。需要はあると思う。
・コミュニティがアーティストを排除しない宣言をしてくれるとよい。

【知事】
・村長にもアートの村でがんがん売り出したらと言っている。
・長野県は移住したい県になっているので、ただの空き家でなく、もう少し付加価値をつけられないかと思う。山付き住宅や農地付き住宅、アトリエ兼住宅など、ほかとの違いが出せるし、潜在的な移住希望者の掘り起こしにもつながる。
・木祖村は（アーティストなどを）受け入れる雰囲気はあると思う。県全体がそうなるようにしたい。

【参加者】
・空き家が増えて寂しくなった。どうやったら今まで以上に活気のある村になるのか。
・知事には長野県の小さい村に足しげく通ってもらって、長野県全体でのうねりをつくってもらいたい。

【知事】
・人の価値観や商売のやり方も変わる中で、どういう村にするのか昭和型発想から脱却して考えないといけない。
・木祖村は木曽川源流であり、アートや伝統工芸品、ものづくりなど、特色のあるものがたくさんある。それらに磨きをかけていけるのではないかと思う。

【参加者】
・空き家問題は総合施策だと思う。成功しているところは商工業や子育てなどで総合的にうまくやっている。
・宿場の中に古民家を活用した休憩施設、宿場町を説明できる場所がほしい。
・木曽谷は日本遺産に認定されたが、妻籠・馬籠や奈良井など点のみで木曽路全体を歩く状態になっていない。熊野古道に匹敵するとの意見もあるが、町村境の旧中山道、国道の歩道に手が入らない。
・トイレの設置改修、維持管理にお金がかかる。町村単位では進まない。

【知事】
・地図上でここの歩道が危ない、ここの山道が整備されていないなどを共有してもらえないか。道路は国道、県道、市町村道それぞれあるので、全体で考えないといけない。
・道路は行政が頑張るが、休憩施設はどうするか。立派な休憩場所をつくったが、お金はどこに落としてもらうのか、セットで考えないと持続可能にならない。トイレの話も一緒。ボランティアでやってもいいが、手が加えられないとだんだん荒れていく。本気でボランティアで回していく仕組みをつくるのか、経済的に回るような仕組みにするのか、併せて考えないといけない。

【参加者】
・山間には芸術の才能のある子どもたちが育つと思う。音楽や美術を解放できる教育だったり、青空の下で学校の勉強をやってみるという教育の解放ができればいい。

【知事】
・教育の話は極めて重要。みんなで変えようという共通の認識を持たないと変えられない。
・日本の教育は一時期はうまくいったが、世の中が変わったら同じシステムではうまくいかないと思う。日本の学校の仕組みが工業社会時代に適合しすぎた形で続いていることが問題。そこを長野県から変えていきたい。

【参加者】
・空き家について、辰野と松本の一風変わったスタジオに行ったが、もともと住んでいる人やＩターンの人など、そこに集まる人たちがハブになっている。何をしているかというのもオープンにしている。無理やりつなごうとしているのではなく、みんなで楽しく話しながらやっている。

【知事】
・昨年、東京で長野県関係者以外の人と対話をしたが、ほとんどが辰野町に関わりのある人だった。なぜそんなに辰野町に惹かれるのかと聞いたら、若者だからという扱いをされないからとのことであった。辰野町は若者が地域に溶け込んでいるが、木祖村もそういうことができるのではないか。
・多様性を尊重したい。いろんな人たちを受け入れる社会でないと日本も地域も衰退していく。シリコンバレーは誰でもウェルカムだから発展した。

【参加者】
・空き家はこれからまだ増えていく。建物を壊した場合に土地の固定資産税が６倍になる。空き家が増えても利用する人が増えなければ空き家は解消しない。そのためには人口増、ベットタウン化、村からは塩尻や伊那にも通えるので、空き家を活用してはどうか。

【知事】
・村では一定程度問題意識を持って対応してもらっている。固定資産税は市町村税なので税率は村の条例で定めているが、おおもとは地方税法で縛られている。税・財政面での分権は進めた方がいいと思っている。

【参加者】
・高齢者が空き家をどうするかというときに、現状では自治体への寄付は受け入れられない。自治体が柔軟に空き家の寄付を受け取れる制度があってもいいのではないか。

【知事】
・寄付の話について、そういう発想は大事。ただ、自治体がもらって管理するとなると、税金で維持管理費を出さないといけない。提案の考え方はあり得るが、実際には厳しい。空き家が増えるのは確実であり、我々もしっかり考えたい。